

2026年1月11日（顕現後第1主日、A年）

メッセージ

「我々にふさわしいこと」

（マタイによる福音書3:13-17）

司祭ヨセフ太田信三

イエスの受洗は、洗礼者ヨハネからイエスへ＝預言者の時代から神の愛する子の時代への転換の出来事でした。イエスはヨハネが思いとどませようとしても、「今はそうさせてもらいたい。すべてを正しく行うのは、我々にふさわしいことです。」と言い、洗礼を望みました。「我々」とは、イエスとヨハネだけではなく、ヨハネのもとへ洗礼を受けるために押し寄せているおびただしい群衆をも含む言い方です。神の愛する子は、すべての命を「我々」と言って下さる方であることがここに示されています。そのイエスは、救いを求めてヨハネのもとに集う人々と共に歩むために、自らも洗礼を受けられました。そしてその人々が「今」すべき「正しいこと」を示しました。御子によるあたらしい時代を迎える「今」にあつて、神が人に望む正しいこととは、ヨハネの呼びかけに応え、回心の洗礼を受けること。つまり、神から離れている心を、御子によって訪れる新しい時代に向けることです。イエスはご自分も洗礼を受けることで、皆と歩みを共にし、すべての人を来たるべき時代へと導こうとされたのです。

イエスは神と人とを再び結ぶために、洗礼によって神の霊と祝福を受け、歩み始めます。その歩みの行き着く先、イエスは天と地の間に立てられた十字架において、私たちと神をとりなしてくださいました。そして、イエスが十字架上で絶命したとき、神殿の幕が避け、神と人とを隔てるものは取り去られました。こうして十字架は、神と私たちを結ぶ架け橋となったのです。イエスが洗礼を通して「我々」と一緒になってくださったこと、そしてご自分の命もろとも神のもとまで導いて下さったからこそ、私たちにとって十字架は命の架け橋となったのです。

イエスが洗礼を通して、「我々」＝私たちと一緒にいてくださったからこそ、私たちはイエスを信じ、御後に従うことで神と生きる世界へと迎えられる道が開かれました。イエスは十字架によって「今」も、私たちと神を結ぶ道となっていてくださっています。ですから、今を生きる私たちも、2000年前ヨハネのもとに押し寄せた人々にイエスが示した御子による新しい世界へと心に向けるなら、私たちもイエスによってもたらされる新しい世界へと迎えられます。

私たちはヨハネの洗礼とは異なり、父と子と聖霊の御名による洗礼を授けられ、イエスによってもたらされた新しい命、神と神の霊とともにある命をいただきます。この命をいただいている者として、「今」あらためて心を神に向け、歩み始めましょう。